エピソード20
「学校が嫌いなんです。」

なみちゃん
　小学校教師として25年以上の経験があります。
エデュサポネットのファシリテータです。

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

小学校で学級担任をしていた時の
経験をお聞きします。

私が、中学年の学級担任をした時、学級に
みゆきさんという元気な女の子がいました。

初めての学級懇談で、みゆきさんのご両親が
参観日や学級行事に全く参加してくれない、
という話を、学級の保護者から聞きました。

それを聞いて、先生はどう感じましたか。

他の保護者は「変わっている」と言っていましたが、トラブルはないようでした。少し安心して、様子を見ようと思いました。

家庭訪問でお母さんにお会いした時も、他の家庭と同じように、みゆきさんの様子を言葉少なに話してくださいました。

その後、みゆきさんの保護者と
どんなことがありましたか。

次の年もみゆきさんを担任することになり、
二度目の家庭訪問に行きました。
お母さんとお会いするのは一年ぶりです。

するとお母さんが「みゆきが、学校が
楽しいって言うんです」と話し始めたのです。

それはどんな意味だったのでしょう。

「自分たち夫婦は、とても複雑な家庭環境で育ち、子どもの頃から、大人は信じられない、学校も先生も大嫌いだと思って育ってきた。

だから、みゆきが学校が楽しいと言うことが不思議で、信じられなかった。」と、お母さんは話してくれました。

お母さんは、なぜ先生に
気持ちを話してくれたのでしょう。

「みゆきの話を聞いたり、学級のお便りを
読んだりするうちに、学校は楽しいところ
なのかもしれない、と思うようになった。

このことを、先生に伝えたかった。」
と話してくれました。

先生は、お母さんの話をどう受け止め、
どう対応されたのですか。

私は、お母さんが気持ちを話してくれた
ことを、とてもうれしく思いました。

そしてその後は、今まで以上に連絡を取り
合い、負担にならない程度に、PTAや
学級の行事に誘いの声をかけてみました。

みゆきさんの保護者に、
何か変化は見られましたか。

参観日や学級の行事に、ご両親で
顔を見せてくれるようになりました。

参観日の時の、みゆきさんの
うれしそうな顔が印象的でした。

なみちゃんの一言

- 保護者の中には、さまざまな問題を抱えている場合があります。教師を信頼して保護者が話してくれても、支えていくことはとても大変です。
- どう支えていくか、何ができるか、難しい課題ですが、ゆっくりと時間をかけて一緒に歩んで行けたらいいですね。

お・し・ま・い

イラスト　尾上樹里
（北海道教育大学 大学院生）

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.